

**令和2年度
学校関係者評価**

令和3年3月

奄美情報処理専門学校

奄美情報処理専門学校 専門課程
学校評価委員会

委員	卒業生就職先企業	代表取締役(業界関係者)
	卒業生就職先企業	統括本部長(業界関係者)
	在校生保護者	代表(保護者)
	奄美自動車学校	教官(卒業生 平成24年度卒)
立会人	奄美情報処理専門学校	学校長 事務局長

目 次

I	学校の現況	P 1
II	評価の基本方針	P 2
III	教育目標・重点目標	P 2
IV	評価項目の達成及び取組状況	P 3～16
	(1) 教育理念・目標	P 3
	(2) 学校運営	P 4
	(3) 教育活動	P 5～6
	(4) 学修成果	P 7
	(5) 学生支援	P 8
	(6) 教育環境	P 9
	(7) 学生の受入れ募集	P 10
	(8) 財務	P 11
	(9) 法令等の遵守	P 12
	(10) 社会貢献、地域貢献	P 13
	(11) 国際交流	P 14
V	学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	P 15

I 学校の現況

(1) 学校名 奄美情報処理専門学校学校

(2) 所在地 〒894-0012
鹿児島県奄美市名瀬小俣町3-50

(3) 沿革

平成14年4月	奄美情報処理専門学校の前身、「奄美情報処理専門学院」を奄美市末広町に開校
平成17年4月	鹿児島県知事に認可され、名称を「奄美情報処理専門学校」と改め、専修学校として新たにスタート
令和1年9月	高等教育の修学支援新制度 文部科学省 認可 システム情報処理科

(4) 学科の構成

課程名	学科名	修業年限
工業専門課程	システム情報処理科	2年

(5) 学生数及び教職員数（令和2年5月1日現在）

学生数

学科名	1年	2年	合計
システム情報処理科	13	16	29
計	13	16	29

教職員数： 専任3名 講師8名(産学連携 4名)

Ⅱ 評価の基本方針

社会から求められる人材を育成し、社会経済発展に寄与する学校となるためには、学校運営に関する点検、評価、改善が不可欠である。本校の教育理念・学校運営・教育活動について行った学校自己評価を基に「学校関係者評価委員会」に選任された委員による学校関係者評価を実施し、評価結果を学校運営等の改善に活用する。これにより学校運営が適切になされると共に、社会から必要をされる学校とすることを基本方針としている。

奄美情報処理専門学校における学校関係者評価は、『専修学校における学校評価ガイドライン』『奄美情報処理専門学校関係者評価委員会規程』に則って行うこととする。

Ⅲ 教育目標・重点目標

(1) 実践的技術教育を通じて、工学的知識・技術の基本を備え新しい“もの”の創造・開発に粘り強く挑戦できる技術者を育成する。

(2) 豊かな教養、技術者としての倫理観を身につけさせ、社会に貢献できる広い視野を持った技術者を育成する。

(3) 産業のグローバル化に伴い、国際社会において自分の考えを表現できる表現力やコミュニケーション力を備えた技術者を育成する。

IV. 評価項目の達成および取組状況

(1) 教育理念・目標

	評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1、無該当:0				
		④	3	2	1	0
1-1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	④	3	2	1	0
1-2	学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1	0
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1	0
1-4	学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	③	2	1	0
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1	0

① 課題

- ・学校の理念・目的・特色含めて、学生及び保護者等に周知することは改善しつつあるが、依然として不足している。日々変革を続けるIT社会に適応するため、必要なスキル並びに求められる人物像をより明確に示すことが課題である。

②今後の改善方策

- ・自己評価等はインターネットからも閲覧可能なので、学校説明会や外部活動などの際に周知活動を設ける。

③特記事項

- ・今年度はコロナ過の中、参加出来るイベントには全て参加し、学校PR周知できたのは良かった。今後も地元小中高や市町村と連携し、地道に活動を続けていく。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・本校から採用した人物が各々活躍している姿は、社会的ニーズに合った人材を輩出していると思います。つまり方向性は間違っていないと思う。

(2) 学校運営

	評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1、無該当:0				
		4	3	2	1	0
2-6	目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1	0
2-7	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	③	2	1	0
2-8	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか	④	3	2	1	0
2-9	人事、給与に関する規定等は整備されているか	④	3	2	1	0
2-10	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	③	2	1	0
2-11	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1	0
2-12	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1	0
2-13	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	③	2	1	0

①課題

- ・業務システムの仮運用を開始し、各々使用している。若干の不具合が発生しているため、修正を行いながら運用を続けていく。
- ・コロナウィルス対策にてリモート授業方法などの効率化

②今後の改善方策

- ・現在業務システムを仮運用しており、修正を行っている最中です。
- ・業務システムとして、学籍・成績・出欠等の学生データ管理システム、教務処理システム、就職関連システムがあり、汎用アプリケーションで加工可能となっているが、一元化、実現されていない部分がある。効率化を向上させるため、関係者と連携しどこまで対応を検討する。
- ・zoomやmeet等のビデオ会議ツールの講習会を実施、緊急時に備えておく。

③特記事項

- ・地域の商工会議所など有識者に必要な知識(就業規則等)についてアドバイスを受ける。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・今後テレワーク主体の世の中になった時の為、時代に遅れない教育・環境作りを心掛ける。もちろん全てがリモートになるわけではないが、特にITはリモート対応の動きが多い認識です。

(3) 教育活動

	評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1、無該当:0				
		④	3	2	1	0
3-14	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1	0
3-15	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1	0
3-16	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1	0
3-17	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1	0
3-18	関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行なわれているか	④	3	2	1	0
3-19	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1	0
3-20	授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1	0
3-21	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1	0
3-22	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1	0
3-23	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1	0
3-24	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1	0
3-25	関連分野における業界との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行なわれているか	④	3	2	1	0
3-26	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組みが行なわれているか	④	3	2	1	0
3-27	職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1	0

(3) 教育活動

①課題

- ・授業を担当できる教員の人材発掘及び育成。昨今の雇用情勢を受け、必要な人材を確保することが困難となっている。
- ・求められる人材を育成するため、専門知識・技術のみならず、コミュニケーション能力、ビジネスマナーの向上を念頭に置いた教育活動が必要である。

②今後の改善方策

- ・今年度は鹿児島市で予定していた講習会に参加出来ず、リモートでも良いので積極的にセミナー等に参加し、人材育成のチャンスを得る。
- ・外部IT企業の特別授業を受け入れることでIT技術の最新トレンドを理解する。
- ・学習成果の出ない学生に対しての時間外の補講授業の実施と併せ、成績上位者に対しては資格取得のための体制を検討、確立する。

③特記事項

- ・関連分野の企業と連携を開始した特別授業が、3年目を終えることが出来た。
- ※現在2社の企業が本校学生を対象に特別授業、給付型奨学金を行っている。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・島外研修は学校運営と要相談しながら、参加不参加(研修内容の優先順位等で)を決めて頂きたい。

(4) 学習成果

	評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1、無該当:0				
		④	3	2	1	0
4-28	就職率の向上が図られているか	④	3	2	1	0
4-29	資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1	0
4-30	退学率の低減が図られているか	4	③	2	1	0
4-31	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1	0
4-32	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④	3	2	1	0

① 課題

- ・卒業後の進路意欲
- ・外国人留学生への対応

②今後の改善方策

- ・離職率減と卒業生の評価向上に向け、社会人と学生との相違点、求められる人材となるため社会人としての在り方を継続指導する。
- ・外国人留学生は言語の壁があるため、容易ではない。補習等で日本語教育を別途を行う。
- ・卒業生の状況、評価、学校への要望等把握のため、情報収集の具体的方策の検討。

③特記事項

- ・今年度は就職100%未達成(卒業計13名 県内3名 県外8名 未決定2名)
未決定者の特徴として、「周りが就職活動をしているから何となく就職活動をします。」という意思の弱い部分を感じました。就職率は本来就職希望者に対しての就職者の割合のことであり、就職希望でない者は分母に含まれないものであり、実際には今年度は就職率100%の認識です。だが本校の教育目標として、自分の将来像を持っていない学生に対して教育、指導を根気強く行い、自らの理想の社会人として社会に出てほしいと思います

④学校関係者評価委員会による評価

- ・外国人留学生に関して、受け入れ態勢や学習支援など様々な問題に引き続き対応してもらいたい、他の学生に関してもこれまで通り教育指導に精進して頂きたい。

(5) 学生支援

	評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1、無該当:0				
		④	3	2	1	0
5-33	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1	0
5-34	学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1	0
5-35	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1	0
5-36	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1	0
5-37	課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1	0
5-38	学生の生活環境への支援は行われているか	④	3	2	1	0
5-39	保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1	0
5-40	卒業生への支援体制はあるか	④	3	2	1	0
5-41	社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1	0
5-42	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行なわれているか	④	3	2	1	0

①課題

- ・就職活動については、担任、就職指導室、学科担当者、地区担当者が連携して支援しているが、意欲の高くない学生、コミュニケーション力不足の学生に対しての指導方法に苦慮する面がある。また就職活動自体が少し早すぎるように感じる。
- ・経済的支援については、本校独自の給付型奨学金や日本学生支援機構奨学制度、国の教育ローン、また金融機関と提携による支援制度等、体制は整っているが、入学時必要な納付金に対する奨学金制度の充実が今後求められる。

②今後の改善方策

- ・学生や保護者が納得のいくよう就職活動を進めていく。

③特記事項

- ・入学式以前に保護者を招いて、奨学金説明会を開催し、例年よりスムーズに事務処理対応が行えた。
- ・前年度から東京都のIT企業が給付型奨学金を実施(2年生対象 月3万円 計36万円)
来年度も継続して実施する予定です。※現在本校の独自給付型奨学金は、WEB制作会社の教育支援金含め2つあります。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・新型コロナウイルス感染症の流行等もあり大変だと思うが、引き続き学生に対して手厚い対応を望みます。

(6) 教育環境

	評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1、無該当:0				
		④	3	2	1	0
6-43	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1	0
6-44	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1	0
6-45	防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1	0

①課題

- ・施設・設備は、学科の特性を踏まえ整備されているが、業界ニーズに合わせて更に充実させる必要がある。※施設についての行政の補助がない（修理は、現在実費）

②今後の改善方策

- ・学外実習施設については、常に新たな情報を取り入れ、社会の動きに応じた内容の見直しを図る。※学外の実習、インターンシップは、地域の施設を利用できるよう企業と連携を模索中

③特記事項

- ・防災に関しては、定期的に検査があり、不備があればその都度、直している。
 - ・定期的に県外企業（情報処理分野専門技術者）の方を特別講師として招いて、実務的な技術や知識を学んだ。※頻度はWEB制作は毎月6時間以上。Java研修は3日間行った。
- ※令和2年度も実施。基本はリモート授業対応し、対面授業を行う場合は抗原検査を実施して授業を行った。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・企業から直接学べるのはとてもいい機会だと感じる。来年度も継続できるよう企業との連携を図ってください。

(7) 学生の受入れ募集

	評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1、無該当:0				
		④	3	2	1	0
7-46	学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1	0
7-47	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1	0
7-48	学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1	0

①課題

- ・学生募集に関しては、真実性、明瞭性、公平性、法令順守等、十分な検討がなされ適正に行われているが、情報をより正確に分かりやすく伝える工夫は今後必要である。
- ・ここ数年入学者が横ばいとなっている。

②今後の改善方策

- ・情報を明確に分かりやすく伝えるため、パンフレット・ホームページ等の記載方法について、改善を検討する。
- ・現在も極力参加出来るものは参加しているが、各高校の進路ガイダンスや地域事業所の主催の説明会にも参加し、学生へPRする。

③特記事項

- ・本校の募集活動は、鹿児島県専修学校協会の規定に則り正しく募集している。
- ・高校訪問、高校での進路ガイダンスや模擬授業、相談会、本校への見学会等を実施。適切で十分な情報提供を行っている。
- ・本校の特色、就職状況などの教育成果、在学生・卒業生の声や本校でのキャンパスライフ等は、SNSやホームページ等で公開し、適切な進路選択ができるよう努めている。
- ・令和3年度に限ってはコロナ過で経済的な問題で進路変更する学生が出てくる可能性があるため、国の奨学金・民間の奨学金等も合わせてチェックし、学生の受け入れ態勢を整える。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・学生募集と受け入れは適切に行われている。

(8) 財務

	評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1、無該当:0				
		④	3	2	1	0
8-49	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1	0
8-50	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1	0
8-51	財務について会計監査が適正におこなわれているか	4	③	2	1	0
8-52	財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1	0

①課題

- ・さらなる財務基盤の安定化

②今後の改善方策

- ・より魅力ある学校作り(設置学科カリキュラム見直し、施設・設備の充実など)に力を入れ、学生数増加に繋げ、収益を確保する。

③特記事項

- ・財務における監査は、外部監査人である税理士が実施されており、適正な監査が行われている。
- ・財務状況(貸借対照表、損益計算書)は本校のWebサイトにて公開している。
- ・本校は補助金なしで運営している。
- ・今年は学生コロナ緊急支援金を取得し、該当者には支援金を申請した。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・補助金なしで、健全に行っている。安定化を目指し努力してください。

(9) 法令等の遵守

	評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1、無該当:0				
		④	3	2	1	0
9-53	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1	0
9-54	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1	0
9-55	自己評価の実施と問題点の改善を行なっているか	④	3	2	1	0
9-56	自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1	0

①課題

- ・個人情報保護の対策は取られているが、常に意識を高めるため、定期的または随時の研修会等が必要。
- ・自己評価の問題点の改善は、職員一人一人の抱える仕事量が多すぎてなかなか進まない。

②今後の改善方策

- ・自己評価の改善点については、直ちに改善できる項目と改善が長期にわたる項目とを分け、改善状況を随時チェックできる体制を確立する。
- ・職員を増やす。システム化で効率のいい事務処理を行う。本校学校教育に賛同してくれる企業等に協力を得る。

③特記事項

- ・本校ホームページに、学校自己評価報告書、学校関係評価報告書、電波学園財務情報を掲載し、情報を公開している。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・法令等は厳守されている。

(10) 社会貢献・地域貢献

	評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1、無該当:0				
		4	3	2	1	0
10-57	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1	0
10-58	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1	0
10-59	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1	0

①課題

- ・ 公共訓練は、教室数の問題や他民間PCスクールが独占しているため実施できない状況。
- ・ 遠方への出張講座は、就業時間外ではできない。
- ・ 試験会場や各種研修会として校舎貸し出しを行っているが、地域に対する公開講座や教育訓練等については実施していない。

②今後の改善方策

- ・ 新たなボランティア活動への取り組みを模索し、参加可能な活動を選定して奨励していく。

③特記事項

- ・ 年に数回ボランティア活動として、地域清掃や外部受入授業・進路ガイダンスに参加している。また国内等で災害など発生した場合等、募金活動を自発的に行っている。
- ・ これから実施するイベントの規模、対象者、感染防止をしっかりと検討し、行えるものは行っていく方向で考えている。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・ 積極的に社会貢献を行っている。今後も様々な活動に取り組んで頂きたい。

(11) 国際交流

	評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1、無該当:0				
		④	3	2	1	0
11-60	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	④	3	2	1	0
11-61	留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1	0
11-62	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整理されているか	④	3	2	1	0
11-63	学習成果が国内外で評価される取り組みを行なっているか	④	3	2	1	0

①課題

- ・直接の留学生受け入れは、まだしていない。(日本語学校卒業生のみ)
- ・企業から求められるコミュニケーション力向上も課題。
- ・留学生就職先の確保および拡大が必要。

②今後の改善方策

- ・日本語学校訪問を実施し、本校の教育内容を明確に伝え、入学のミスマッチを無くす。
- ・留学生の目的に沿ったサポート、学習を引き続き継続していく。
- ・就職先確保のための企業訪問の実施。

③特記事項

- ・留学生が日本で就職先を見つけられない原因として、外国人留学生向けの求人が少ないこと、留学生用就職情報があまり充実していないことが挙げられます。
- ・令和2年度 留学生退学者 3名 主な退学理由として3名ともコロナ過でアルバイトがあまり出来ず、生活苦から学費の滞納などが理由です。分納など学校側で出来る善処を試みたのだが、退学となりました。成績素行不良と本人にも問題があるが、留学生に対してのサポート体制の強化と留学生に頼らない学校運営を目指す。※奄美大島島内の日本語学校は閉校した。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・コロナウィルスの影響で奄美大島島内の日本語学校は閉校に追い込まれた。本校はその危機を乗り越えていけると信じている。その為にも具体的な目標を掲げ、健全な学校運営を目指す。

V 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・IT企業との実践授業の実績ができた。今後も継続していけるよう連携を図る。(前年度)
→令和2年度もコロナ過だが実践授業、企業型独自給付型奨学金を継続することが出来ました。
今後も継続出来るように協力体制を整えていく。

・学校運営システムを改良し、2020年度中には、稼働する予定。(前年度)
→現在稼働しており、使用しながらシステム改良を行っている最中です。

・コロナ過でインターンシップ受け入れが中止となった。次年度開催出来るなら是非地域貢献の為、実施したい。※本校が職場として、中高生向けインターンシップ。

今後も学校運営の安定化を目標にあらゆる情報を活かしていきたい。

総合評価

学校方針の基本的な考え方として、

(1) 実践的技術教育を通じて、工学的知識・技術の基本を備え新しい“もの”の創造・開発に粘り強く挑戦できる技術者を育成する。

(2) 豊かな教養、技術者としての倫理観を身につけさせ、社会に貢献できる広い視野を持った技術者を育成する。

(3) 産業のグローバル化に伴い、国際社会において自分の考えを表現できる表現力やコミュニケーション力を備えた技術者を育成する。

を掲げ、本年も活動してきた。かなりの部分が改善改革が進められてきたが、まだまだ課題が残る項目も見受けられる。来年度以降も残された課題を一つ一つ確実に改善改革に取り組む所存である。

・コロナ過という大変な状況の中、学校運営の安定化をめざし、学生ファーストの学校作り継続していく。

・リモート授業など新たな取り組みも行う事が出来た。令和3年度も臨機応変に対応するよう職員、外部講師と連携を取る。

・本校独自の給付型奨学金など少しずつだが、学校の特色が出てきており、周りに周知されてきているが、まだまだ足りないと感じている。奄美大島の高校生含む、他の地域にもPR出来るよう努力していく。今後も学校運営の安定化を目標にあらゆる情報を活かしていきたい。

学校関係者統括

毎年、就職率100%など高い教育実績を作り上げ、常に最新の教育を維持し続けることは大変ではあるが、専門学校教育、離島教育（奄美大島群島内の学生たち）には必要なことであり、それを実践していることは評価したい。また少子化の中、学生数を維持していることは地域社会から信頼されている証拠であり、その期待に沿えるよう頑張っていたきたい。

先ほども話題に上がったが2020年コロナウィルスの影響で世界的に大変な時を迎えている。そのような困難な時代にも立ち向かっていける教育を期待しています。